

生活科学学習指導案

海田町立海田南小学校 阿部 しのぶ

1 対 象 第1学年

2 単元名 夏がやってきた ～「シャボンマスターShow 2013」をひらこう～

3 単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領生活の内容（6）「自然や物を使った遊び」（8）「生活や出来事の交流」を基に構成した。内容構成の具体的な視点としては、「生産と消費」「情報と交流」「遊びの工夫」を取り入れている。シャボン玉は、水遊びの中の一つで、児童が夏に一度は遊んだことのある身近な遊びである。しかし、その遊び方は市販のシャボン玉セットであったり、食器用洗剤をストローでとばす程度だったりする。この単元では、身近にある物を使って、シャボン玉をつくる道具を工夫したり、遊び方を工夫したりすることで、シャボン玉の大きさや数が増えることや、工夫して遊ぶことの面白さに気付かせ、友達と進んで関わりながら遊びを楽しむことができるようになることをねらいとしている。

シャボン玉遊びを通して、児童は知的好奇心を高め、創造する楽しさを味わうことができる反面、自分の思いに沿った道具を工夫することができなかつたり、うまく膨らませることができなかつたりすることも経験するであろう。またこの時期の児童は、友達と関わりながら遊ぶ中で、様々な考えをもち、発見をする。その考えや発見を友達に紹介認められることで、互いのよさを発見し、それを生かしてさらによいものを考え、つくろうとするだろう。このことは、児童が自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりしようとする、意欲や自信につながっていくと考える。

○ 児童観

本学級の児童は、これまで砂遊びやプールでの水遊びを経験してきている。スコップを使って大きな山をつくることや穴を掘ることに熱中して活動する様子は見られるものの、準備してきたカップやペットボトルなどの材料を組み合わせて、道具を工夫しながら遊んだり、自分たちでいろいろな遊び方を考えたりするまでには至っていない。

また遊びの中で、友達と相談しながら楽しく遊ぶためのルールを考える姿は、少しずつ見られるようになってきている。しかし、いろいろな発見や工夫に気付いても、一部の児童だけで共有するだけにとどまり、友達と交流し考えを出し合いながら、さらに楽しくなるように工夫しようと追求する児童は少ない。

○ 指導観

指導に当たっては、次の5点の工夫を行う。

- ① 単元導入では、いろいろな水遊びを経験する中で、シャボン玉への興味や面白さが広がっていくようにする。そして、様々な発想や発見が生まれるシャボン玉遊びに焦点を絞り、もっとやってみたい、工夫したいという意欲を高める。
- ② 自分の思いや願いを基に活動する中で、友達と比べたり繰り返し試したりしながら試行錯誤する時間を保障し、活動したことを伝えたいという思いや願いが高まるようにする。
- ③ 児童が気付いたことを交流する場を設け、発見したシャボン玉づくりのコツにネーミングをしてその考えのよさを価値付けるなど、自分や友達のよさを認め合うことができるようにする。
- ④ 本時における気付きを想定し、教師が気付かせたいことを明確にしておく。それを基に、児童が感じたことや発見したことを豊かに表現したり、気付きを比べたりつなげたり、考えたりすることができるように、言葉かけなどの支援を工夫する。
- ⑤ 単元末の「シャボンマスターShow 2013」では、友達と発見したことについて伝え合うことのよさや楽しさを味わうことができるようにし、日常生活の中でも進んで友達と関わり、遊びを工夫することができるようにする。

4 単元の目標

身近にある物を使ってシャボン玉遊びに使う道具を工夫してつくったり、それを使って遊んだりする活動を通して、その面白さや不思議さに気づき、進んで交流しながら遊びを楽しむことができるようにする。

5 単元の評価規準

		生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
単元の評価規準		思いや願いをもち、友達と関わりながらシャボン玉遊びを楽しみ、見付けたことを進んで伝え合おうとしている。	シャボン玉をつくるための道具を工夫しながら、友達と遊んだことを振り返り、自分なりの方法で表現している。	遊びの楽しさや遊びに使う道具をつくる面白さ、自然の不思議さ、友達と関わって遊ぶことの楽しさに気付いている。
学習活動 (小単元) における 評価規準	1	① 水遊びに関心をもち、友達と一緒に楽しく遊ぼうとしている。		① 身近な物を利用すると、水遊びが楽しくなることに気付いている。
	2	② 自分の思いや願いをもち、シャボン玉をつくるための道具を、つくろうとしている。	① 繰り返し試しながら、シャボン玉をつくるための道具工夫してつくっている。	
			② 友達と自分の道具を比べ、それぞれの工夫のよさを素直に表現している。	② 友達のよさや自分との違い、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
	3	③ 友達と関わりながら、楽しくシャボン玉遊びをしたり、見付けたことを伝えたりしている。	③ つくりたいシャボン玉ができるように道具を改良したり遊び方を工夫したりしている。	③ 道具やとばし方によって変わるシャボン玉の面白さや不思議さに気付いている。
			④ これまでに見付けたシャボン玉づくりのコツについて、相手に分かりやすい伝え方の工夫をしている。	

6 指導と評価の計画 (10時間)

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準	評価方法
1 水遊びを楽しもう。 (2)	[小単元の目標] 身近な物で遊べる水遊びに関心をもち、身近な物を使ってみんなで楽しく遊ぼうとする。 ○ 身近な物を使って遊ぶ。 ○ 遊んで楽しかったことや気付いたことを紹介し合う。 ○ もっと楽しく遊ぶにはどんなことがしたいか話し合う。	関①：水遊びに関心をもち、友達と一緒に楽しく遊ぼうとしている。 気①：身近な物を利用すると、水遊びが楽しくなることに気付いている。	・行動観察 ・発言
2 道具を使って、シャボン玉をつくろう。 (6) …本時 1・2/6	[小単元の目標] つくりたいシャボン玉への思いや願いをもって、試したり、つくった道具を友達と比べたりすることを通して、遊びをつくりだす面白さに気付き、道具やとばし方を工夫しようとする。 ○ 自分の思いや願いに沿って、シャボン玉をとばす道具をつくる材料を選び、道具をつくる。 ○ 出来上がった道具を使って、シャボン玉遊びをする。	関②：自分の思いや願いをもち、シャボン玉をつくるための道具をつくろうとしている。 思①：繰り返し試しながら、シャボン玉をつくるための道具を工夫してつくっている。	・行動観察 ・発言 ・つくった道具 ・振り返りカード

	○ 思いや願いが同じ児童でグループになり、アドバイスをもらったり、試したりする。 ○ 活動を振り返り、工夫した点やがんばった点についてカードに書く。	思②：友達と自分の道具を比べ、それぞれの工夫のよさを素直に表現している。 気②：友達のよさや自分との違い、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。	
	○ 自分の思いや願いに沿った、シャボン玉をつくるために、友達とアイデアを交流しながら、道具や遊び方を工夫する。	思③：つくりたいシャボン玉ができるように道具を改良したり遊び方を工夫したりしている。 気③：道具やとばし方によって変わるシャボン玉の面白さや不思議さに気付いている。	
3	[小単元の目標] 「シャボンマスターShow」で、友達と進んで交流する楽しさや、友達のよさ・自分との違いに気づき、友達と関わりながら進んで楽しく遊ぼうとする。		
「シャボンマスターShow」を開こう。(2)	○ 「シャボンマスターShow」を開き、道具やとばし方の工夫を交流し合う。 ○ 友達の道具を使わせてもらったり、自分の道具を友達に貸してあげたりしながら、楽しく遊ぶ。 ○ 「シャボンマスターShow」の活動を振り返り、学習カードに絵や文でまとめる。	関③：友達と関わりながら、楽しくシャボン玉遊びをしたり、見付けたことを伝えたりしている。 思④：これまでに見付けたシャボン玉づくりのコツについて、相手に分かりやすい伝え方の工夫をしている。	・行動観察 ・発言 ・つくった道具 ・振り返りカード

7 第2次における予想される気付き

一つ一つの気付き	関連付けられた気付き	自分自身への気付き
○きれいなシャボン玉ができた。 ○きらきらしている。 ○みんなまわくてふわふわだ。 ○ちっちゃいのがたくさんできたよ。 ○ストローじゃなくてもできた。 ○自分の顔と同じくらいのシャボン玉ができたよ。 ○針金で大きな輪っかをつくってみよう。 ○ひもでもできるかもしれない。 ○モールを使って、ハートの形にしたよ。 ○星型のシャボンも飛ばしたい。 ○すぐにパリンって割れた。 ○うちわを振ったら、シャボン玉ができた。 ○ビューって風がふいたら、シャボン玉ができたよ。	○ストローをたくさんくっつけたら、一回でたくさんできたよ。 ○ダンボールをまるめて、穴をたくさんつくったらできたよ。 ○穴がたくさんあると、一回でたくさんのシャボン玉ができるよ。 ○大きな輪っかでやると、大きなシャボン玉ができた。 ○輪っかみたいにしないと、シャボンの膜がはらない。 ○毛糸はたくさん液をすうよ。 ○膜の部分に、液がたくさん残るようにするとい。 ○モールや針金は、形を自由に変えることができるよ。 ○息を強く吹くと上手くいかない。やさしく吹くと上手くできる。 ○風の力でもシャボン玉をとばすことができるね。	【自分自身】 ・失敗もあったけど、何度もつくり直してできたよ。 ・自分で遊ぶ道具をつくるのって、面白いね。 ・他にもシャボン玉ができそうなものがないか、見つけてみよう。 ・次は、違う遊びの道具をつくりたいな。 【人との関わり方】 ・友達にアドバイスをもらって、上手にできてよかったよ。 ・友達といっしょにあそんだり、工夫したりするのは楽しい。 ・いろんなものを使って、違う遊びもみんなとやってみたいな。

8 本時の展開（2時間）

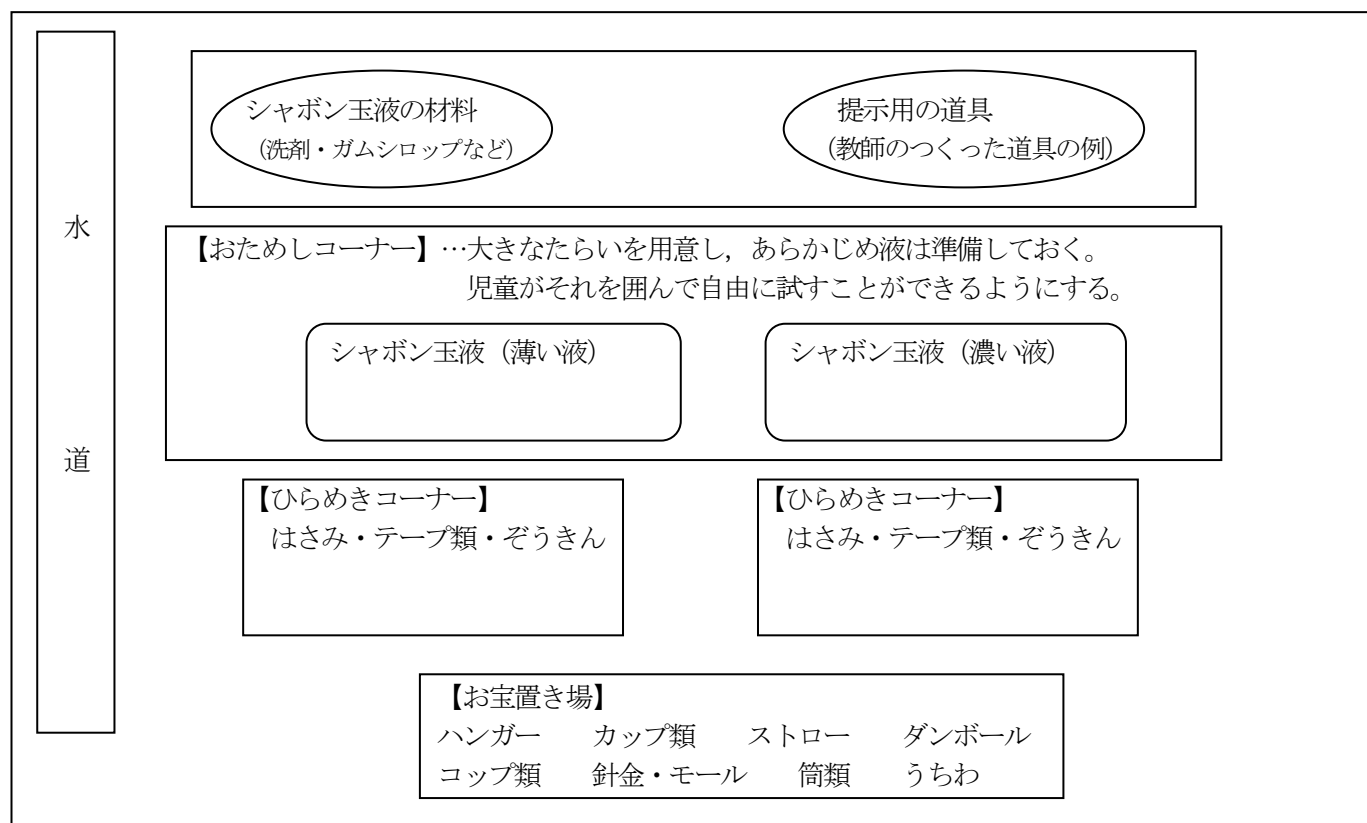
（1）本時の目標

シャボン玉でつくるための道具を工夫してつくったり、それを使って試してみたりする活動を通して、友達と一緒に工夫しながら遊びを楽しむことができるようにする。

（2）学習の展開

学習活動	予想される児童の反応（○）と指導者の支援（☆）	評価規準	評価方法
1. 前時の遊びを思い出す。	☆ 前時に使った道具やシャボン玉の絵本を見せることで、本時の活動に見通しと意欲をもたせる。 ○ もっと大きなシャボン玉をつくってみたい。 ○ いろいろな道具を使ってやってみたい。		
2. 学習のめあてを確認する。	いろいろなシャボン玉をつくる、どうぐをつくろう!! ～ためして はっけんの巻～		
3. 自分の思いに沿ったシャボン玉をつくるための道具を工夫しながら遊ぶ。	☆ どんなシャボン玉をつくりたいかを交流し、使える材料をいくつか示し、どんな工夫ができそうか見通しをもつ。 ☆ 誤飲などがないように、遊びの約束を確認する。 ○ たくさんできるといいな。 ○ いろいろな形のシャボン玉にしてみたいな。 ○ ▲▲をつかってみようかな。 ○ ▲▲と◆◆を組み合わせたらどうなるかな。	関②：自分の思いや願いをもち、シャボン玉をつくるための道具をつくろうとしている。	・行動観察 ・発言 ・つくった道具
4. シャボン玉で遊びながら発見したことを、全体で交流する。	☆ 実物を使って実際にシャボン玉をつくりながら説明したり、動作化したりしながら、発見したことが伝えられるようにする。 ☆ 成功した道具だけではなく、失敗した道具についての気付きも共有できるようにする。 ○ 大きなシャボン玉をつくるために、針金を使いました。できるときもあるけど、われることが多いです。 → モールを使うとわれないよ。 毛糸を巻いてみるといいかもしれないよ。 ○ ストローよりも大きい輪っかのものでやると、大きくなったよ。 ○ ハートや星型にしてみたけど、形はできなかったよ。 ○ ストローをたくさんくっつけてみたよ。 → 息をふくのが大変そうだね。 → もっといっぱい出るのをつくりたいよ。	思①：繰り返し試しながら、シャボン玉をつくるための道具を工夫してつくっている。	
5. 次時の見通しをもたせる。	☆ 工夫のよさや友達との関わりのよさを価値付ける。 ☆ 自分がどんなシャボン玉をつくりたいのか、思いや願いをもたせ、次時の活動につなげられるようにする。 どうぐをレベルアップさせよう! ～かいぞうして はっけんのまき～		

(3) 環境設定と準備物



(4) 板書計画

